



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済：金融・為替関連（2月16日～26日）

1. イラン中央銀行総裁の発言（16日付ジヨムフーリーイエ・エスラーミー紙）

イラン中央銀行のバフマーニー総裁は「イラン中央銀行は為替センター外での外貨取引を排除する準備を行っている。これにより、不必要な理由や投資目的で外貨を取引する動きを、違法取引と見なす予定である。規定が施行された後は、輸入業者や留学生、旅行者等向けという明確な理由がある者のみ外貨を取り扱うことが出来るようになるだろう」と述べている。

2. 銀行汚職事件被告への死刑判決承認（18日付ドンヤーイエ・エグテサード紙）

イラン国家検察庁は、（2011年に発覚した28億米ドル相当の）銀行汚職事件に関し、イランの経済システムを混乱させたことによる「地上における墮落」罪等に問われたマンスール（Mansur）被告（Arya Investment Promotion Co. 社長）、ホスラヴィー（Khosravi）被告（Iran National Steel Industrial Group 役員）、ベフザーディー（Behzadi）被告（Arya Investment Promotion Co. 金融資産・投資促進担当次長）、ショジャーイー（Shoja'i）被告（サーデラート銀行アフヴァーズ・ナショナル・グループ支店長）の4人に対する死刑判決が承認されたと発表した。これにより、判決に異議を唱えることが不可能となり、4人の被告の死刑は法的手続きが終了次第、実行される見込み。

3. イランおよび世界各国のインフレ率（18日付シャルグ紙）

国会研究所は、2012年の南西アジア地域および世界各国とのインフレ率比較をまとめた。これによるとイラン（21.8%）は、域内第1位、世界第6位（ベラルーシ：65.95%、エチオピア：33.91%、ベネズエラ：31.55%、ウガンダ：23.335%、スーダン：23.19%に次ぐ）を記録した。南西アジア域内の平均と比較した場合、イランは3.4倍のインフレ率を計上している。

4. 非奨学生（大学院生）向け外貨供給（19日付シャルグ紙）

イラン中央銀行は、2012年10月22日～2013年2月18日までの間に、非奨学生（大学院生）向けに外貨を2億2,800万米ドル供給した。主な代理店は、テジャーラト銀行（2億1,300万米ドル）とサーマーン銀行（1,500万米ドル）であった。

5. 輸入品に対する非参照レートを採用（19日付ケイハーン紙）

為替センターのキャリーミー報道官は、輸入に関する優先順位のうち、カテゴリ9の商品に対し、非参照レートを近日中に採用することを明らかにした。カテゴリ9に該当する主な商品は、コンピュータ部品類、携帯電話、エレベーター、2,500cc以下の自動車、家電製品である。

6. 経済成長率（19日付ジヨムフリーイエ・エスラーミー紙）

国会研究所によれば、2012年におけるイランの経済成長率は0.36%を計上、世界第164位、南西アジア地域第23位となった。メスバーヒー＝モガッダム（Mesbahi-Moqaddam）議員は、アフマディーネジャード大統領が示した5.2%という経済成長率を批判し、「これ（0.36%）は失業率の上昇と製造セクターの減退によるものである。大統領が公表した数値は経済統計上矛盾している」と述べた。

7. 為替センターへのユーロと人民元の供給（21日付ハムシャフリー紙）

輸入業者とイラン中央銀行総裁との会談の結果、為替センターにユーロと人民元がさらに供給される。為替センターのキャリーミー報道官は、石油化学製品の販売収入が輸入業者の需要を満たすため支給されると述べた。露ルピーと米ドルは為替センターへの供給が制限されるとみられる。

8. イラン中央銀行による金貨の前売販売（26日付シャルグ紙）

ある経済専門家は、イラン中央銀行による金貨の前売販売に関し、「イランを取り巻く国際情勢が厳しくなり、金等の輸入が困難を呈している最中、イラン中央銀行による金貨放出はインフレの根源となる流動性を吸収する効果を得られることが予想される。しかし、それは同時に中央銀行の金保有高を減少させることを忘れてはならない」と発言。

9. 鉱工業・商業大臣発言（26日付ケイハーン紙）

ガザンファリー鉱工業・商業大臣は、「現在の変動レート下で一部の組織には利益が齎されているが、これは同時に国家の破滅的な結果を招くものである。粗利を得ている組織は現在の状況を認識すべきであり、このままでは一部の組織の過ちにより国家が犠牲となる」と述べた。